

国際教育 礎プラン 進捗状況



1 これまでの取組

小中高連携推進モデル地区（ベイエリア推進地区）で研究

- ◆小中高を通じた学びの円滑な接続のための連携カリキュラムの作成
 - カリキュラムの原案をもとに、それぞれの学校で実践をもとに付加修正
 - CAN-DO リスト形式による目標設定に向けての検討
- ◆研究推進のための連携担当教員・連携担当ネイティブスピーカーの配置
 - 愛宕浜小、姪浜中、福岡女子高3校にそれぞれ配置
 - 3名のネイティブスピーカーは、定期的に各学校を行き来し情報交換
- ◆ICTを活用した英語教育高度化の研究
 - NSによる遠隔授業に取り組むため、授業内容や方法などの検討（能古中への遠隔授業準備）

- ・GT（ゲストティーチャー）
 - ※ 留学生や地域在住の英語を母語としている方、英語に堪能な保護者等。選定は各小学校で行う。
- ・NS（ネイティブスピーカー）
 - ※ 外国人英語指導講師。教育委員会が業者に委託し、各中学校・高等学校に派遣している。

2 成果と課題

小学校における授業研究

◆小学校英語科の準備

アルファベットの読み書き、単語の読み書きを取り入れた授業実践
【愛宕浜小 10/27】



【教育センター長期研修員による授業実践】



ICTを活用した授業研究

◆遠隔授業

教育センターと愛宕浜小学校をつないでの授業デモンストレーション
【7/22】

中・高等学校における授業研究

◆オールイングリッシュ授業の実施

小学校英語の早期化・教科化を見据えた授業の高度化
【姪浜中 4/30（11/13にも予定）】



【福岡女子高 6/16, 10/9】



◆デジタル教材の使用

NSによるICTを活用した授業
小学校でのデジタル教材を活用した授業



◆異校種の授業参観を通して

○小中高を通して共通実践すべき活動の整理（クラスルームイングリッシュ、活動の仕方等）
○実践をもとにしたカリキュラムの見直し
OGT・NSのより効果的な活用方法の研究

◆ICTを活用した授業

○どのような教材をどのような場面で活用していくことが効果的なのか検証する必要性
○遠隔授業の内容・方法の検討

3 今後の取組

- ◆小学校英語の早期化（1～4年外国語活動）
 - 保幼との連携も踏まえた1・2年からの実施
 - 3・4年生へのGT・ボランティア増員
 - ※ベルビュー・チルドレンズ・アカデミープログラムの試行
- ◆小学校英語の教科化（5・6年英語科実施）
 - 5年生でのGTの有効活用
 - 6年生でもNSを活用した高度化した授業

- ◆英語の授業の高度化
 - モデル（活動型授業）を広めることによるオールイングリッシュ授業の実施
- ◆ICT活用による遠隔授業の共有化
 - モデル授業の配信、学校間の交流授業
- ◆各学校における研究成果をもとにした実践
 - 報告会、動画配信等による研究内容の紹介

アントレプレナーシップ教育～ふくおか立志応援プロジェクト～進捗状況



1 これまでの取組

チャレンジマインド育成事業

【小学校】

◆夢の課外授業（9月より授業開始）

- 9/29 別府小
 - 30 若宮小、高宮小、若宮小で実施
 - 講師：水内 猛氏（元Jリーガー）
下柳 剛氏（元プロ野球選手）
- 11/6 春住小 芝田山親方（元横綱大乃国）
また割り、四股体験、力士に児童が相撲挑戦

◆ゲストティーチャー等による講話（6月より授業開始）

6/18 香椎下原小などで実施

◆ジュニア・アチーブメント教育プログラム導入（CAPS）

10/29 住吉中、10/30 照葉小、11/2 住吉小で先行実施

【中学校】

◆起業家による社会人講話（10月より授業開始）

- 10月2日 東光中（中3対象）
 - 講師 株式会社 ディーゼロ（HPデザイン）
矢野 修作氏
- 5日 筑紫丘中（中3対象）
 - 講師 株式会社 ホープ（自治体の財源確保支援）
時津 孝康氏



※CAPS（キャップス）・子どもたちがチームを組み、ディスカッションをしながら「ほうし屋さん」の経営シミュレーションにチャレンジする学習

ふくおか立志応援文庫（全小中学校）

- ◆「立志」「チャレンジマインド」に係る書籍を配備（H27.10.23 現在）
設置状況 小学校 132校（92.3%）、中学校 66校設置（95.6%）
※残りの学校はH27年度中に設置完了予定、五郎丸選手（鶴田小、老司中卒）の自著をすべての小中学校に配布



2 成果と課題

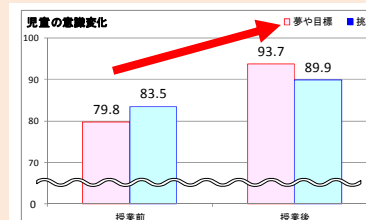
夢の課外授業（対象 小学校）

◆児童の意識変化（若宮小 6年）

「将来の夢や目標をもっているか（夢や目標）」
「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦しようと思うか（挑戦）」の設問で、授業後の児童の意識が向上



元Jリーガーによる授業



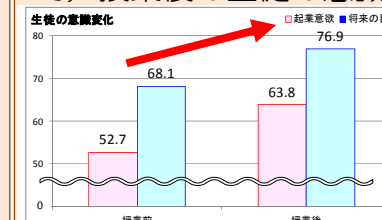
起業家による社会人講話（対象 中学校）

◆生徒の意識変化（東光中 3年）

「将来、会社を起こしたり、社長になりたいと思いますか（起業意欲）」
「将来、自分のやりたい仕事がありますか（将来の目標）」の設問で、授業後の生徒の意識が向上



起業家による社会人講話



【児童の声】

- 夢を簡単にあきらめないようにしたい。
- 難しいことでも恐れずに挑戦していきたい。

【参観者の声】

○将来を考えるきっかけをつくっていただいた。

【生徒の声】

- 自分の将来について興味がでてきた。
- 自分の力も大事だけど人に支えてもらうことも大事

【参観者の声】

○やりたいことを言葉で考えることが大切

3 今後の取組

◆夢の課外授業

・残り小学校5校で実施予定

◆ゲストティーチャー等による講話

・残り小学校135校で実施予定

◆ジュニア・アチーブメント教育プログラム導入（CAPS）

・照葉中 1/15 実施予定

◆起業家による社会人講話

・残り中学校21校で実施予定
公開授業

- 2/5 金武中
 - 講師 藤野 直人氏
株式会社 クロスエイジ他6名
- 3/7 元岡中
 - 講師 中尾 賢一郎氏
株式会社 グランドビジョン

